

別紙

**平成28年度企画提案型協働事業（アイデア審査）
アドラー心理学による「勇気づけコミュニケーション」のすすめ
提案に関する委員会付帯意見**

- 1 指定テーマにふさわしい事業内容となるよう、担当課と議論を深めてください。
- 2 より幅広い市民を対象とした事業内容を検討してください。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

新たな取り組みに期待

- ・カタチから入りがちな市（行政）に対して、「考える」から入る貴団体のアプローチは独創性があると思います。
- ・市の取り組みとは非連携して下さい。
- ・アドラー心理学を理解するだけでも必要であり、少しでも広がっていけば良いと思います。
- ・拡張性を期待して、総合評価を○としました。期待しています。
- ・男女共同参画の必要性が叫ばれる中で、子育て世代を対象とした取り組みは、最初は小さなものであるかもしれないが、重要なテーマであると考えられる。
- ・2013年6月より、すでに「勇気づけ勉強会」を開催して、150名余りの参加者を集めている…。アドラー心理学による新たな視点での啓発活動に魅力を感じる。又、予算年間15万円程度も適切だと思うし、市との協働事業として、ひとまずスタートする価値を感じる。

市との協働事業？

- ・「勇気づけコミュニケーション」そのものは興味深いが、指定テーマとの関連付けが弱いと思う。
- ・市との協働事業としてどのような効果があるのか不明。
- ・指定テーマである「男女共同参画」と本事業（アドラー心理学）との関係は抽象的には結びつく事は、おぼろげながら理解できるが、市の協働事業にふさわしいとは思えない。（ただしアドラー心理学「嫌われる勇気」に興味はある）
- ・指定テーマということで、「啓発事業」を行うにあたってのひとつ切り口として「アドラー心理学」を活用する、という提案内容と理解しました。もしかすると、コンペ形式あるいは、担当部局主催の提案募集方式の方がよいのかもしれません。（協働事業というカタチではなく）

協働事業・男女共同参画 目的を明確に

- ・担当課と十分な議論が必要。「市の事業」としての妥当性があるか、特定の考え方を広げる活動とならないか留意が必要。
- ・市民にアドラー心理学をいかに理解させるのかが不明確。
- ・今の印西市で解決しなければならない課題、問題なのかが明確でないのが気になります。
- ・男女共同参画を達成するための、1つのツールとして、「アドラー心理学」がある、という位置づけを、明確にする必要がある。アドラー心理学を拡げることは目的ではない。

「啓発」を含んだ事業計画作り

- ・啓発事業としての事業内容となっているのか。一部分への対象事業ではなくなるようにする工夫必要。
- ・この事業の広め方（宣伝）が不明。

- ・講座の実施についての概要は明確だが参加者をどのように増やすか、関心をもつ人をどのように増やすか計画に入れてほしい。
- ・男女共同参画に関わる協働事業という観点からは、「勇気づけの子育て」 + α の講座では少し内容が離れた感じが否めません。職場や家庭において男女共同参画時代に起こる諸課題についても心理学的観点から講座を設定して頂くような工夫を検討して頂きたい。